



元 議委 第 6 0 号

令和元年 1 0 月 1 0 日

南会津町議会

議長 室井 嘉吉 様

南会津町議会産業建設委員会

委員長 渡部 訓正



委員会調査（行政視察）報告書

本委員会所管事務調査事件について、調査の結果を別紙のとおり、会議規則第 7 7 条の規定により報告します。

産業建設委員会調査（行政視察）報告書

1. 調査事件

- ①ヤマザクラの推進体制について
- ②苗木生産事業について

2. 出席者

湯田良一副委員長、馬場浩委員、高野精一委員、山内政委員

随員：農林課課長補佐兼林政係長 星克之

議会事務局長補佐兼議事係長 星貴夫

3. 調査内容

(1) ヤマザクラの推進体制について

長野県池田町役場議会全員協議会室・概要の説明

令和元年9月25日（水）午後2時10分から午後3時15分

応対者：池田町議会議長 倉科栄司 氏

池田町産業振興課観光係長・観光協会事務局長・観光推進本部事務局長

片瀬 登氏

ヤマザクラが群生している箇所の現地調査

令和元年9月25日（水）午後3時20分から午後4時20分

応対者：池田町産業振興課観光係長 片瀬 登氏

① 視察地の概要

池田町は長野県北安曇郡の南部に位置し、北は大町市、東は生板村、南は安曇野市、西は高瀬川によって松川村に境し、東西6.2km、南北12.8kmで総面積40.16km²。

町の西部は安曇野の平坦地域で、本町の主要幹線となっている主要地方道大町明科線が南北に貫通し、ここに大字池田、会染、中鵜地区がひらけ、全人口の大部分が平坦地域に集中しており、西端を高瀬川が流れている。町の東部は山間地帯で、ここには大字広津、陸郷地区の集落が散在している。池田町は北アルプスの雄大な山容を一望できる景観に恵まれた町である。

気候は典型的な内陸性気候で、年間を通じて降雨量が少なく、冬は積雪量が少なく、寒冷だが夏は比較的過ごしやすいという特徴をもっている。

池田町はあづみ野の一角を担い、県下でも有数の米どころとして稲作を中心に農業も栄えてきた。近年の社会構造の変化により、付加価値の高い「花とハーブ」の生産も盛んに行われるようになってきた。また、ヤマザクラの名勝として「西の吉野、東の陸郷」と称され「桜仙峡」の町として呼ばれるようになってきた。

② 調査内容

1) ヤマザクラの推進体制について

ア 町内陸郷地区の8世帯20人近くがヤマザクラに関わっている。

- ・ 元来ヤマザクラは自生していたものである。鳥が種を蒔き散らしその結果として次々に芽を出し成木して行った。気が付いたらエドヒガン、オオヤマザクラの桜が目立ってきた。
- ・ 2007年著名カメラマン、ピート伊藤氏が来訪され陸郷地区のヤマザクラの景観に感激され「西の吉野、東の陸郷」と称される。
- ・ 2008年その事によりヤマザクラの美しさが広められ観光客が訪れるようになる。地域住民、陸郷地域の人々により通称「桜仙峡(おうせんきょう)」と定められる。
- ・ 2009年地域全体の桜模様を”陸郷山桜”とし、桜仙峡エリア・夢の郷エリアを区分「陸郷山桜トレッキング」イベントを開催する。
- ・ 桜仙峡は自生桜を高台から眺め見下ろすエリア。
- ・ 夢の郷は自生桜に加え、植栽種桜や個人が植栽したラベンダーを間近で見廻すエリア。

イ ヤマザクラの育成に関わる取り組み

- ・ 環境保全や景観形成については、陸郷地区の活力による活動が主体である。年間10万円委託料を支払っている。
- ・ ヤマザクラの下草刈り等は樹高が高いので必要ない。散策する際の遊歩道整備などを行っている。
- ・ 観光誘客、来訪者誘導、諸手続きなどは、観光推進本部が費用を負担している。

2) 今後の課題

ア 地域住民の減少、高齢化による従事者の減少。

イ 観光推進面ではアクセス等の整備、環境保全が課題である。

ウ 環境保全面では被害木の整備、除去が課題である。

3) 現地調査

ア 現地に赴くと町道が狭く、車の交換が中々大変な状況であった。

イ ヤマザクラの現況は、全ての木が成木で全く手入れをする必要はないと思われる。

ウ 季節外れの調査なのでヤマザクラの景観は見られなかったが、写真などをみるとなるほど桜仙峡だろうと思われた。

エ 観光客は桜の開花時に一斉に訪れるので、会場までのアクセスが中々大変だろうと現地で思った。

町道が狭いので今後改良は少しずつ進めるとのことであった。

(2) 苗木生産事業について

岐阜県下呂市 住友林業(株)岐阜樹木育苗センター

令和元年9月27日(金)午前8時45分から午前10時15分

応対者：シニアマネージャー 川添峰夫氏

① 視察施設の概要

住友林業株式会社は平成28年3月29日、岐阜県所有の下呂林木種事業地で、岐阜樹木育苗センターを開設した。この施設は住友林業株式会社が独自で開発したコンテナ苗の生産技術を活用して、令和5年には年産100万本の苗木生産を目指すものである。

この他にも全国3か所の苗木生産施設でそれぞれ生産体制を強化し、苗木の安定供給体制に取り組むことで森林資源の持続的な活用を図る事を目的としている。

この事業に取り組む背景は、全国的に森林が伐採期を迎え、国産材利用の機運が高まる一方で再生林の苗木は不足している現状がある。住友林業株式会社は平成27年岐阜県と苗木生産に関する協定を締結し、今回コンテナ苗の生産施設を建設し、苗木生産に取り組むこととなった。県有地で民間企業が苗生産をするのは大変めずらしい事例であり、民間企業と自治体が連携して苗木供給体制を作る全国初めての施設である。

- ・ 所在地 岐阜県下呂市乗政字徳十郎薙 786-17
- ・ 事業地面積 8,205.9 m²
- ・ 事業内容 コンテナ苗の生産(スギ、カラマツ、ヒノキその他)
- ・ 施設内容 ビニールハウス4連棟(1,056 m²)、発芽室など
- ・ 生産規模 年間20万本(平成29年)
- ・ 事業費 約9,100万円

② 調査内容

この施設は苗木育成環境の最適化と周年生産体制を構築することで、育苗期間の短縮による小面積での大量生産と苗木の品質向上を目指している。

具体的には、九州大学と共同で充実種子を選別できる充実種子選別装置を開発し、「発芽室」を設け、一度に最大14万個体の安定的な発芽を可能にしている。半自動式播種機も併せて導入することで、手作業での種まきと比較した生産能力は5倍～10倍となっている。発芽室は野菜などの発芽の際にはよく用いられるが、林業用種苗に用いるのはめずらしい事例と言える。また、1人でも1,500本以上のコンテナ苗を載せた専用台・ベンチを移動できる「ムービングベンチ方式」を採用し、労働負担の軽減を図っていることが、女性の雇用に結びついていると言える。空調機の導入できめ細かな温度調節が可能となり、苗木の成長促進効果は絶大であった。全ての操作はコンピューター制御で若いお母さん向きの職場であった。

- ・ 施設を案内してもらい、作業内容の説明を受ける。
- ・ 施設で雇用されている方は、事務員男性2人。ハウスで作業されている方は女性が7人、内5人は保育所の児童の送迎をされる位の世代の人だった。
後の2人の方は少し年配だった。

③ 苗木生産計画

- ・ 第1期工事(20万本)平成27、28年・施設整備、平成29年20万本生産
- ・ 第2期工事(40万本)平成30年・施設整備、令和2年累計60万本生産
- ・ 第3期工事(20万本)令和2年・施設整備、令和4年累計80万本生産
- ・ 令和5年累計100万本(生産効率の向上による)

4. 所 見

(1) ヤマザクラの推進体制について

ヤマザクラ1万本の里づくりを目指す当町と池田町とは、ヤマザクラの景観を目指すことでは一致していたが、自生のヤマザクラの景観でほとんど予算を使わなくても維持出来ることは大きな違いであった。また、地域の方々が積極的に景観維持に関わっている事も、今後当町の参考にすることであると感じられた。

ヤマザクラの景観は「西の吉野、東の陸郷」と言うかなりインパクトの強いキャッチフレーズで今後の参考になる。「桜仙峡」の命名は正にその通りと思われるものであった。一度ヤマザクラの満開の時に訪れて見たいと思わせる景観である。

ただ景勝地へのアクセスは非常に悪く、細い町道を車での移動は中々大変で今後道路の拡幅にも取り組むという事であったが、観光客への対応は車を使わない方式の検討が必要と感じて来た。

(2) 苗木生産事業について

岐阜樹木育苗センターは正に苗木作り工場と呼ぶにふさわしい施設であった。

なお、岐阜樹木育苗センターへ、南会津町の苗木生産施設(年内竣工予定)の関係者が1ヶ月ほど研修に行かれるとの事であった。

本町の施設は20万本生産施設で、岐阜樹木育苗センターより規模は小さいが、機能は今までの施設運営ノウハウを生かして、よりグレードの高い施設になるであろうとの説明であった。また、高速道路へのアクセスも1時間弱の位置にあり、完成したら他の住友林業の施設と関係を密にして情報交換を行い、より効率的なコンテナ苗の生産が図られるという事もお聞きしたので、早期の完成が待たれる思いである。

◆視察研修写真

○池田町での視察の様子



○池田町での視察の様子



○池田町陸郷地区（桜仙峡エリア）



○池田町陸郷地区（夢の郷エリア）



○住友林業樹木育苗センターでの視察の様子



○住友林業樹木育苗センターでの視察の様子



○住友林業樹木育苗センターでの視察の様子



○苗木への灌水の様子

